

## 会 議 録

会議の名称	第1回上尾市総合計画審議会		
開催日時	令和2年2月18日(火) 13:30~15:30		
開催場所	市役所議会棟4階 第三委員会室		
議長(委員長・会長)氏名	上尾市総合計画審議会 会長 平 修久		
出席者(委員)氏名	荒川 昌佑、尾花 瑛仁、平田 通子、星野 良行、前島 るり、伊波 潔、 小山 富榮、鮫島 紀子、平 修久、高橋 正一、田辺 勝広、土橋 康夫、 細野 宏道、三井田晴宏、村松 綾子		
欠席者(委員)氏名	なし		
事務局(庶務担当)	行政経営部長 粟野 昭夫、同次長兼施設課長 小田川史明 行政経営課長 野崎 孝幸、行政経営課副主幹 本郷美代子 行政経営課主任 東海林智之、行政経営課主任 三浦 直人		
会 議 事 項	1 議 題	2 会議結果	
	(1) 会議の公開について  (2) 第6次上尾市総合計画策定方針等について  (3) その他	報告・説明と質疑応答	
議事の経過	別紙のとおり	傍聴者	2人
会議資料	別紙のとおり		
<p>議事の内容末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和2年 3月 24日</p> <p style="text-align: right;">会長の署名 <u>平 修久</u></p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 <u>土橋康夫</u></p>			

## 議 事 の 経 過

司会 (行政経営部長)	<p><b>1 開 会</b></p> <p>「第1回上尾市総合計画審議会」を開会いたします。 次第に添って進めさせていただきます。</p>
	<p><b>2 委員及び事務局紹介</b></p> <p>次第の2番目「委員及び事務局 紹介」でございます。 お手元の「審議会委員名簿」の順に、自己紹介をお願いしたいと存じます。 それでは、荒川委員さんから、お願い致します。</p>
委員	<p><b>【委員 自己紹介】 1～15</b></p>
司会 (行政経営部長)	<p>ありがとうございました。 続きまして、事務局の紹介をさせていただきます。</p>
事務局	<p><b>【事務局 自己紹介】 (順次)</b></p>
司会 (行政経営部長)	<p>以上で、委員及び事務局の紹介を終了させていただきます。 今後ともよろしくお願い申し上げます。</p> <p>それでは、議事を進めさせていただきます。 本日の会議は、委員の過半数の方の御出席を頂いておりますので、上尾市総合計画審議会条例第6条第2項の規定により、有効に成立していることを御報告いたします。</p>
	<p><b>3 会長及び副会長の選出</b></p> <p>次に、次第の3番目「会長及び副会長の選出について」でございます。 審議会条例第4条 第1項には、「審議会に、会長及び副会長1人を置き、委員の互選によってこれを定める。」と定められておりますが、いかがいたしましょうか。</p>
委員	<p>事務局一任</p>
司会 (行政経営部長)	<p>ありがとうございます。 それでは、事務局より、提案をさせていただきます。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>はい。事務局案でございますが、会長に、平 修久委員、副会長に、星野良行委員を提案させていただきます。</p>
司会 (行政経営部長)	<p>ただいま事務局より提案がございましたが、いかがでしょうか。</p>
委員	<p>(異議なしとの声)</p>
司会 (行政経営部長)	<p>特に、御異議がないようですので、会長には、平委員、副会長に星野委員と決定させていただきます。 恐れ入りますが、会長と副会長に おかれましては、お席の移動をお願い致</p>

	<p>します。</p> <p><b>【座席移動後】</b></p>
司会 (行政経営部長)	<p>それでは、会長に、就任の御挨拶を頂きたいと存じます。平会長、よろしくお願ひ致します。</p>
平会長	<p>ただいまご指名いただきました聖学院大学の平です。大学ではまちづくり学、環境政策論、コミュニティビジネス論、宮原地域学をやっております。</p> <p>今日の天気は室内にいますと温かくて気持ち良い感じなんですけども、外では若干冷たい風が吹いているというのが、ちょうど今の上尾市の状況のような感じがいたしました。</p> <p>先ほどの市長さんからもお話ありましたように、上尾市で色々課題を抱える中で、そういう現実的な対応と、そうは言っても明るい未来も描いていくということがこの審議会の使命かと思っております。その辺のバランスをうまく考え、この審議会でも活発にご意見を出していただき、よりよい基本構想案、基本計画案を皆さんとともに作っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。</p>
司会 (行政経営部長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、星野 副会長、よろしくお願ひ致します。</p>
副会長	<p>副会長に仰せつかりました、市議会議員の星野でございます。平会長を支えながら、皆さんと共に素晴らしい総合計画を検討していきたいと思っておりますので、どうかの皆さんもご協力をよろしくお願ひ申し上げまして、一言挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひします。</p>
司会 (行政経営部長)	<p>ありがとうございました。</p> <p><b>4 第6次上尾市総合計画の諮問について</b></p> <p>それでは、次第にそって、議事を進めさせていただきます。</p> <p>これより、第6次上尾市総合計画の審議に関し、市長による、当審議会への諮問を行います。</p> <p>畠山市長から、会長へ諮問書をお渡しします。</p>
市長	<p><b>【諮問書を朗読し、会長へ手渡す】</b></p>
平会長	<p><b>【諮問書の受理】</b></p>
司会 (行政経営部長)	<p>ここで、畠山市長におかれましては、公務により、退席とさせていただきます。</p> <p><b>【市長退席】</b></p>
司会 (行政経営部長)	<p>それでは、審議会条例第4条第2項の規定によりまして、この後の進行は、平会長にお願ひ致します。</p>

<p>平会長</p>	<p><b>5 議題</b></p> <p>それでは、議事の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたしますします。</p> <p>次第の5番「議題」に入ります。はじめに議題の1「会議の公開について」事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>本審議会につきましては、資料1「審議会等の会議の公開に関する指針」に従いまして、審議会委員の皆様にご説明したうえで公開することとなります。よろしくお願いいたします。</p>
<p>平会長</p>	<p>ただいま事務局より説明がありましたが、公開に関して何か質問はありますか。</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、事務局に確認します。本日、傍聴を希望される方はいらっしゃいますか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>お二人いらっしゃいます。</p>
<p>平会長</p>	<p>それでは、ただいまから、傍聴者の方に入場していただきます。事務局は傍聴者を入場させてください。</p> <p><b>【傍聴者入場】</b></p>
<p>平会長</p>	<p>議事に入ります前に、傍聴者の方に傍聴にあたって留意いただきたいことについて申し上げさせていただきます。先ほど事務局よりお配りいたしました傍聴要領をよくお読みいただき、遵守をお願いいたします。また、傍聴要領に反する行為をされた場合は退場していただくことになる場合がありますので、ご留意いただきますようお願いいたします。</p> <p>では、次に議事の正確性を証するために、議事録に署名をお願いしたいと考えております。議事録署名人につきましては、出席の中から1名、会長の私より指名させていただきますと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは議事録署名人につきましては指名させていただきます。本日の議事録署名人はですね、右隣に座られました土橋委員にお願いしたいと思います。</p> <p>それでは議題2「第6次上尾市総合計画策定方針等について」、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>&lt;資料について説明&gt; (以下、事務局の説明部分は要旨とする。)</p> <p>本日も説明させていただきます内容は、今後、第2回審議会からご議論をいただくその前提の話の上尾市の現在の人口の状況などについての説明となります。</p> <p>資料2 人口推計及び将来目指すべき人口について (案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1 ページ。国勢調査を見ると、1980年に166,243人だった人口が増加し、2015年は225,196人になっている。国勢調査であるので、5年刻みであり、直近が2015年ということになっている。</li> <li>・しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計によれば、総人口が今後減少に転じ、緩やかに減り続け、2045年には200,265人になるとされているところ。</li> <li>・問題なのがその内訳であり、年少人口(0から14歳)、生産年齢人口(15</li> </ul>

- から64歳)が減少し続ける。一方、老年人口(65歳以上)は増加し続け、2045年には高齢化率が37.1%になると推計されている。
- ・2ページ。直近の5年間の人口増減率の比較ですが、埼玉県平均が1.00%で、上尾市の伸び率は0.56%と微増。伊奈町が4.60%。全国平均は▲0.80。隣の桶川市も▲1.04とマイナス数値。
  - ・3ページ。年齢5歳階級別の人口の構成比の推移。  
上側の表2015年では、40歳ぐらいが一番大きい山になっており、団塊ジュニアの世代。二つ目の山が70歳くらい。それが2045年には、老年者が多くなり逆三角形の形になる。
  - ・4ページ。こちらは、先ほどの年齢3区分別の人口の構成比の推移。
  - ・生産年齢人口がどれだけいるかということが市の税金にも影響してくる。
  - ・2045年には年少人口が10.3%、生産年齢人口が52.6%になる。
  - ・下図の棒グラフをみると、年少人口と生産年齢人口の区分が減っており、一番右側の老年人口の区分が増えている。
  - ・参考に、下に囲ってあるグラフが他市の状況。上尾市とほぼ同じような状況にあるということが見て取れる。伊奈町は少し若い人の割合が高いが、10年、15年後ろにずらすと同じような状況になるかと思われる。
  - ・5ページ。こちらは人口動態の推移。
  - ・人口の増減はどのようなものから増減するかというと、自然増減(出生と死亡)と社会増減(転入と転出)。
  - ・図表を見ると、自然増減は2013年ぐらいに、生まれる数よりも亡くなる人の数が多くなっていることがわかる。
  - ・一方、社会増減は、2003年に大きく増えている箇所があるが、これは駅前にマンションが三つできたことが影響している。
  - ・毎年増減はあるが、平均すると転入超過であるという状況。
  - ・特に最近では2014年くらいを境にずっと右肩上がりになっている。
  - ・上尾市が微増している要因は、社会増によるということがわかる。
  - ・6ページ。昔はグラフ左側の若い年代が増えていたが、最近では少しそれが落ちてきている。
  - ・全体として若い世代の流入が減ってきており、逆に高齢者を中心に転入が増えていると考えられる。
  - ・7ページ。こちらはご参考までに世帯数の推移をあらわしたものの。
  - ・グラフを見ると、2015年単身世帯が25,453世帯。核家族世帯数は59,618世帯ということになる。単身世帯と核家族世帯数を足しますと、大体85,000世帯ぐらいになることから、一番上の折れ線グラフ総世帯数が91,330のため、差し引き6,000世帯程度が、3世代などが同居する世帯となる。
  - ・8ページ。今後の上尾市の人口の見通しを積算。
  - ・総合計画を作るにあたり、向こう10年上尾市がどうなっているかを見せた上で作る必要があると思い、情報として入れさせていただいたところ。
  - ・5年刻みの国勢調査の数字であるとデータが古くなってしまうため、毎年発表している住民基本台帳の数字を使用している。
  - ・特段、人口増に関する施策を打たず現状のまま推移(社人研の人口推計データを準拠)した場合、上尾市は204,959人になると推計される。
  - ・国では第二期まちひとしごと創生長期ビジョンを作っており、これに準拠し、上尾市の合計特殊出生率を2045年までに人口置換水準と言われる2.07に回復した場合の推計を作成。仮に人口置換水準である出生率が2.07に回

- 復した場合、2045年の上尾市の人口は219,478人になることが推計される。
- ・この推計においても人口は現在よりも減るが、もしこうなった場合は、年少人口が50.9%増加し、1万人増加、生産年齢人口も3.5%増えることになる。
  - ・参考に、上尾市で平成27年に人口を推計した「前期長期ビジョンの推計との比較」を下の表で示した。
  - ・あくまでも当時ゴールを2040年としてとらえた時の数字であるため、先ほどご説明した数字とは若干変わるが、イメージとしてお掴みいただきたい。
  - ・「第1期」っていうのが5年前の推計であり、何もしないと2040年には195,600人になってしまうという推計。それに対して上尾市としては、定住促進事業を積極的に実施することなどにより、何とか出生率とか社会増を上げ207,800人にするというような目標を5年前に作った。
  - ・それに対し、次期長期ビジョン（第二期）では、何もしないでこのままいくと2040年は209,809人になるというような社人研の調査結果が出ている。
  - ・また、ここでは「将来目指すべき人口」というふうに書かせていただいているが、国が出生率を2.07に上げる推計を作成し、また、埼玉県でも現在同じ計画を作ろうとしており、先日、パブリックコメントで掲載していた内容を拝見すると、県も同様に人口置換水準の2.07に出生率を引き上げる推計を作成していたので、上尾市としてもその数字を仮に置くと将来目指すべき人口が220,116人と推計したところ。
  - ・現在よりも8,000人程度人口は減少するが、第1期と比べて、かなり上振れしているということがわかる。
  - ・9ページは今まで申し上げたものをまとめたもの。
  - ・赤い折れ線グラフと、その上の緑色の折れ線グラフ、こちらが第1期のグラフ。なにもしないでいくと赤の線となるので、何とか引き上げて緑の線にするんだという目標を立ててきた。
  - ・今回の提示した次期長期ビジョンの人口推計値を見ると、紫色の点々の線、何もしないでいっても前回より上振れしている状態であり、これからも引き続き定住促進事業を積極的に展開することにより、青色の実線、一番上の数字まで持っていければ良いなというものを書かせていただいたところ。
  - ・10ページ以降が、積算の根拠を詳しく書かせていただいただけなので、ここでの説明は省略をさせていただく。
  - ・ご参考までに、最近、上尾市の3、4年のトレンドは、4年前に想定していたよりも良くなったというふうに申し上げたが、少しわかりやすい資料を用意したので、配付させていただく。
  - ・今お配りした資料が、第1期の上尾市地域創生長期ビジョンで作成した5年前の純移動数の推計。
  - ・この資料でいくとマイナスの数字が大きいのが、ちょうど子育て世代となっており、男性が30歳から40歳ぐらい、女性が20歳後半から40歳ぐらいの世代のマイナスが大きくなっていた。
  - ・この世代を何とかしようということで、定住促進事業を展開してきたところである。
  - ・その結果が12ページ。
  - ・功を奏してきたとはまだ言い切れないかもしれないが、資料をみると、ほ

とんどの年代において大きなマイナスがなくなっており、プラスに転じてきている。

- ・女性の方は若干25歳から、40歳前までがまだマイナスがあるが、0.00007となっており、かなり人数的にも圧縮しているのかなととらえている。
- ・そのため、先ほど申し上げたが、若干、いい意味で上振れしてきている。

### 資料3 第6次上尾市総合計画策定方針

- ・まず、計画策定の趣旨であるが、第5次総合計画を作った10年前と比較すると、上尾道路の開通や圏央道の桶川北本インターチェンジの設置、あとは高崎線の上野東京ラインの開通などがあり、市民の利便性はますます向上している。
- ・新たな計画期間となる今後10年間だが、団塊の世代が後期高齢者を迎える「2025年問題」に直面する。
- ・また、高齢者人口が全国的にピークとなる「2040年問題」。2040年は、この総合計画の計画期間には入っていないが、10年より先を見据えた計画を作らなくていけないことから、「2040年問題」というものも視野に入れつつ、この10年間の計画を作っていきたいと考えている。

## 2 策定内容

- ・こちらは二つあり、ひとつは基本構想。これは「まちづくりの基本理念」と「将来の目指す姿」及び「まちづくりの基本方向」といった大きな方向性を基本構想として考えている。ここは議決案件になっているところである。
- ・もう一つは、基本計画。基本構想は10年の計画期間ですが、基本計画は少し細かく政策を書いていく箇所になるため、10年先ではなく5年ずつ前期と後期に分けて作っていきたい。
- ・そのため、今回は基本構想と前期の基本計画を合わせて作っていきたい。

## 3 策定にあたっての視点

### (1) 右肩下がりの時代に対応する計画

- ・先ほど、説明したとおり、仮に出生率が人口置換水準の2.07に回復したとしても、上尾市の人口は減るので、このことを踏まえ考えていきたい。
- ・人口減少、少子化、超高齢化が進行する右肩下がりの時代にあるという認識に立ち、これまでのような総花的な計画ではなく、限られた予算、人員を、行政が実施しなければならない分野に優先的に投入していくという考え方に立った計画にしたいと考えている。

### (2) 未来を見据えて将来の市民ニーズに対応しうる計画

- ・市民が夢を持って、輝きながら生活できるまちを実現するため、しっかりと未来を見据えた将来の市民ニーズに対応しうる計画としたい。

### (3) 持続可能なまちづくりと地域活性化の実現に向けた計画

- ・「SDGs」という言葉をよく耳にされるとは思うが、市民・企業・団体との連携などによって、教育・福祉・雇用・環境・防災など広範な課題に取り組み、持続可能なまちづくりと地域活性化の実現に向けた計画とさせていただきたいと考えている。

## 4 計画の構成と期間

- ・先ほど申し上げたとおり基本構想は10ヵ年構想。
- ・基本計画は、10年間を前期と後期に分けて、5年間の計画
- ・実施計画は、毎年行政経営部の方で予算査定をさせていただいているが、そこで毎年毎年ローリングをかけ、足元を見つめながら直近3年間の計画

を作っていくという作業をおこなっている。

これは当然 (1) 基本構想と (2) 基本計画の方向性に沿って予算を査定したうえで、実施計画を毎年作り、これにより毎年PDCAでまわしているということになっている。

#### 5 策定体制

- ・総合計画審議会は市長の諮問を受けて、総合計画案について調査及び審議を行い、答申をしていただくもの。
- ・ご参考までに、別紙として資料3の一番後ろに策定体制を図示した資料がある。
- ・市民の側では、「あげお未来創造市民会議」というものを作っている。公募と団体からの推薦の皆様による市民会議で、30名で構成しており、委員の皆様からいろいろ意見を聞いて、総合計画の素案を作っていきたいと考えている。
- ・策定体制図では、市民会議から矢印が右上に出ているが、市長に対して意見として提言書をいただく。
- ・また、右側に「総合計画策定プロジェクトチーム」とあるが、これは市の若手職員12名で構成しており、市民会議と一緒に議論をさせていただいている。
- ・ここで素案を作り、図でプロジェクトチームの上にある、各部の次長級で構成する「総合計画策定幹事会」でその素案を議論し、さらにその上、副市長をトップとする、部長級で構成している「総合計画策定委員会」でさらに議論し、市長の指示をもらいながら、総合計画の審議会でも、ご議論いただいたうえで答申をいただき、最終的には、市議会、来年度の12月定例会に上程していくという段取りで今後進めさせていただきたいと考えている。

#### 資料4 第6次上尾市総合計画策定スケジュール (予定)

- ・この後は4月に1回、5月に1回、7月、8月と少しタイトだが、ご議論をたまり、草案に反映させてまいりたいと考えている。
- ・上尾市議会には、12月定例会に上程するが、その1会期前の9月定例会に素案的なものをご説明して、そのあと市民コメントを10月に行う。
- ・市民コメントで市民の皆様からもご意見をいただき、それを反映させる形で、再度、11月中旬に審議会を開かせていただきご意見いただいて、議会にお諮りするというような流れで、今後進めさせていただきたいと思っている。
- ・あくまでもまだ予定であるため、もしこの回数で足りないということになれば、少し夏の間を刻ませていただくなど、回数を増やすことになるかもしれないが、今のところ、このような予定で考えている。

平会長

あらためて、ただいまの事務局からの説明に関しまして、ご質問等ご意見ありますでしょうか。はい。尾花委員。

尾花委員

形成過程に関する基本的な考え方を聞きたい。前回の第5次計画との背景の違いはわかったが、計画自体の考え方や作り方に違いがあるかどうかを聞きたい。要するに検証可能な仕組みにするかとか、ある程度指標入れて、基本計画の段階で検証できるようにしていくことはあると思うので。

上尾の場合、今の基本計画も検証できる方法が取り入れられていると思



ますが、それを踏まえて反省とは言わないですが、10年間も経てば、色々世の中の状況も変わったり、人口減少の課題とかが出たりすると思われる。

それからもう一つが、現在、議決事件になっているのは、基本構想部分のみなんです。基本構想が基本計画と実施計画の3層構造になっているので、調べたら1969年ぐらいからトレンドが始まっているようで、そうすると結局、自治法改正で、基本構想の策定義務がなくなった後に、うちの議会も平成26年ぐらいに議論して、それを議決事件に戻したと思う。でもこの時に改めて基本計画部分も議決事件として扱うべきだったのではないかという疑問が出て来まして。要するにその3層構造になったことによって最初の基本構想部分がちょっと抽象化されてる部分がある。そうするとその真ん中の、基本計画を議決に入れるべきではないかっていうことであり、これは本来議会側で話すべき話だが、ただ執行部側としてその構造等は理解してると思うので、どう思われているか。要するに、総合計画自体が市の実行計画かっていうと、多分その当該エリア内で活動する人たちの市民だったり、国だったり、企業だったりを一応参照して自分たちが何をどのようにするかという判断ができるようなものにすべきだと思ってるので。そうすると例えば、今ぱっと総合計画の冊子を1枚めくって市長挨拶が入ってその次のページめくったときに、議長とか議会側の挨拶も入った自治体もあるみたいなので、本来そういう方向にしたほうがいいんじゃないかって思っているんで、その辺ももし答えられる見解があればお願いします。

事務局  
(行政経営課長)

一つ目の、検証可能な指標を入れた基本計画にするのか、というご質問ですが、きちんと数値目標を立てて、検証が可能な基本計画にしていきたいと思いますと考えております。あと、現計画もそのようにしているんですが、反省点については、例えば制度の変更などにより影響が出てしまうような目標を立てていたものもありました。今すぐに例示できませんが、この総合計画の指標ではないですが、例えば、企業誘致をして税収を増やそうという目標を立て、「法人市民税額」なんかを目標にしていると、地方にお金を流すということが最近のトレンドになってますので、現在法人税なんかは法律が変わってしまい、今年度減税になり、数値が落ちてしまいました。そうすると、要は、市税が減り国税が増えて、国税からまた地方に交付税なんかで戻ってくるような構図になってしまっているんで、あまり制度で変わってしまうような数値目標というのは、良くないなと思いました。そのため、5年間で普遍的な数値目標が良いかと思われまます。

また、よくアウトプットとアウトカムっていうご議論があり、例えば、最終的なアウトカム指標を、市民が幸せに感じるパーセンテージだとします。アウトプットというのは、もう少し細かい話で、例えば、交通の利便性が上がるとか、少し直接的な目標を立ててしまってるケースもありました。そのアウトプットを達成したからといって、果たして市民は幸せになっているのか。やっぱり市民が幸せになるような指標を立てたいなと思っていまして、アウトカムの指標が良いなと思っております。それが反省点でございます。2点目の回答は部長から回答します。

事務局  
(行政経営部長)

先ほど尾花委員さんからお話ありましたが、確かに平成20年代後半に地方自治法の改正がありました。それまでは、地方自治法の中で基本的にこの三段構想の一番上位の基本構想については、まず、市の策定義務があって、な

	<p>お且つ策定とかするときは市議会の議決が必要である、という規定が、地方自治法に明確に規定されてました。それがやはり地方分権の進展で、そのようなことは個々の市町村が自らの意思で決めるべきということで、そういう義務規定は、地方自治法の中からはなくなりました。それを受けて、上尾市市議会で確か議員提出の議案だったと記憶しているのですが、過去の地方自治法の時と同じように、基本構想については、議決事項にするという考えを引き継いだものと考えてございます。なお、上尾市市議会の議決すべき事件に関する条例、それには、基本構想は議決があると定めてあるんですが、根拠になってます地方自治法96条第2項では、市町村の議会の任意で議決事項は、追加することは可能ですので、96条第2項を使って、さらに下部の5カ年の前期後期計画も議決事項にするということは、制度上は可能です。ただ、先ほど、総合計画に議長挨拶などを入れてはどうか、とのご質問もありましたが、議長挨拶とかを入れることは可能ですが、私の理解ですと、基本的に市の執行計画は、計画を定めて執行するというのは執行機関である市長の権限であり、かつ義務であるという前提を踏まえた上で、計画づくりは制度上考えられているというふうに認識はしております。以上です。</p>
尾花委員	<p>ありがとうございました。</p>
平会長	<p>よろしいですか。はい。他の委員の方いかがでしょうか。</p>
田辺委員	<p>人口フレームについてちょっと教えていただきたいと思います。この推計は国調でやっていて、将来推計は住基でやって、すでにスタート時点で、2015年のスタートラインがもう住基だと3,000ぐらいズレてしまっていますが、これは何か、合理的な理由みたいなものはありますか。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>はい。そうですね。住基ですと上尾市の場合ですね228,000人の人口の上尾市ですが、国調と3,000~4,000人ズレるんです。おそらくそれは国調の方が正確ですので、それは住基登録しているしていない、その関係でズレています。</p>
田辺委員	<p>今のスタート時点でも3,000ずれちゃうのがおかしい気もするんですけども、国調は絶対正しい数値となるが、住基の数値を使用するのは統計上のテクニカルなものとしてやむを得ないという認識でよろしいのか。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>今のところそのような数字の使い方をしたいと思っております。</p>
田辺委員	<p>それはずっと過去からそういうやり方でやられているのか。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>ここまで人口推計をしたのが今回初めてなので、住基の数値を使うのか、国勢調査を使うのか、というのは今回初めてなので、田辺委員のご意見も参考にしながら、今後、詰めていきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
田辺委員	<p>将来推計の出生率は、2.07がトレンドであるので2.07に合わせていくということか。</p>

事務局 (行政経営課長)	国・県が掲げる目標と同じ傾きで向かっていくということで考えております。
田辺委員	特に何かこれに関する推計データはないわけですよね。
事務局 (行政経営課長)	はい。
田辺委員	まち・ひと・仕事創生も推計データはない。この出生率2.07は、理念でしかないと思うんですよね。ここにいる皆さま誰も2.07に戻るとは思っていないと思うのですが、それでもそういう目標だというふうに理解すればよいか。
事務局 (行政経営課長)	そうですね。
田辺委員	出生率2.07はトレンドとして、2045年に向けて実施していくっていうイメージということですが、社会増は社人研を使うのか。
事務局 (行政経営課長)	資料2の12ページに社人研の調査データがありますが、この社人研のデータを使おうかと思っており、足元見ると5年前よりもいい数字になってます。そのため、これはこのままを維持することも重要だろうというふうに考えてますので、こちらは社人研の推計を使いたいというふうに考えております。
田辺委員	人口フレーム作るときに、1点ちょっと考え方として加味した方がいいかなと思っているのが、外国人。多分、埼玉県自体でみると外国人は、千葉に次いで全国に2位くらいで、外国人の動きは分からないんですけど、多分上尾市さんあたりも産業張り付いていらっしゃるので、外国人の移動が多かったりする気もするし、今後の国の動きなんかによっては一気に増えてくる可能性もありますし、それは多分施策にもはね返ってくるんだらうなと思いますので、その辺は、書く書かない別にして、追っておいたほうがいいのかと個人的には思います。
事務局 (行政経営課長)	ありがとうございます。
土橋委員	世代構成というのが、今非常にダイナミックに変わっている中で、まちの性格っていうのは、昼間人口の比率っていうのを見ていくと、そのまちの性格も一つの顔が見えるのではないかとということで、例えば県南の方に行けば行くほど多分昼間人口は減って、要するに東京首都圏に就業している。上尾市では、その辺というのはどんな評価をされているのでしょうか。
事務局 (行政経営課長)	やはり上尾市の昼間人口は少ないですね。夜の方が多い。そこでベッドタウンと言われるのはそこから来てると思ってます。
土橋委員	それはそれで一つの活力ではあるんですよね。高齢者になっちゃったら多分、昼間人口が増えてしまうと思うので。現状、上尾市の昼間人口はやっぱ少ないということですね。

事務局 (行政経営課長) 村松委員	はい。  最近の上尾市の合計特殊出生率とかは分かりませんか。
事務局 (行政経営課長)	申し訳ございません。先ほど説明を省略してしまった箇所、資料2の11ページ。表の上尾市の2015年のところに1.43と書いてあるのが、2015年の上尾市の合計特殊出生率です。
村松委員	上尾市仮定と書いてあるが、これは。
事務局 (行政経営課長)	申し訳ありません。2015年は基準値ですので、仮定ではございません。実績値でございます。
村松委員	これは増えてるんですか。この数字しかないから分からない。 30代の女性が増えてもみんな子供を産むわけではないですし、その人たちが増えて出生率が上がったってことじゃないと、あまり統計として意味がないのかなと思って。子育て世代からして住みやすいのか、ただ若い女性が住んでいるのか、そこがちょっと分からないなと思います。
事務局 (行政経営部次長)	確かに先ほどから2.07っていうのは、国がなると言ってる数字で、正確な根拠は示されてないんですね。あと当然先ほど田辺委員からお話のあった外国人も入ってきている。今、国道16号圏内っていうのは何とか人口は減らないんじゃないかっていう話も国から出ています。ちょうど上尾市は16号にかかるぎりぎりのところに位置していますので、上尾から北に行くと人口は減ってきています。ただし、上尾もよく見ていくとやっぱり外国人労働者とか入ってきたりしています。今後、この中で国がどういう施策を打ってくるのかも見ながら、私たちもこの計画の中に落とし込めていかなきゃいけないというのは課題として持っております。
村松委員	できれば過去の合計特殊出生率は出せますか。
事務局 (行政経営課長)	今用意します。ちなみに上尾市の合計特殊出生率は、上尾市は平成30年度が1.20。埼玉県平均1.34。県より平均よりは低くなっています。
村松委員	結局、若い女性が来ても出生率が減っていたら、功を奏したかというのはちょっと整合性がないですね。
事務局 (行政経営部次長)	県全体が下がって、上尾市も下がっていったらそれが、どうして国は2.07になるのかというのは興味深いところです。
細野委員	ご説明をありがとうございました。基本的なことを質問させていただきたいと思いますが、その出生率を2.07。現状はここ数年でも下がっているという現状及び実情を先ほど2.07に失笑が起きたようなことを考えますと、まずこの基本構想、基本計画、実施計画という3段階がありますが、最終年度、10ヵ年構想ということは確定なんですか。すなわち10年間にやるべきことが僕たちには考えられるのでしょうか。すなわち、将来というのは将来の人た

ちがつくるのであって、私たちが、将来を見据えて、いわゆる2.07という数値を使って作る。ところが現状は、政府でさえ根拠を示していない。現状はどうなんですか。それから、上尾市は1.43です。たった2年で下がっていますという現状を皆さん知っているにもかかわらず、最終年度2030年の基本構想を作るということはどうなんですか。すなわち、基本計画は5年で見直します。かつ、3年ごとに実施計画を見直すわけなんです。本当に議論をして作る。すなわち、このようなプロジェクトチームから各階層次長様部長様のチームがあつて、市民会議もあるわけなんです。そこで議論をして、最終の総合計画というのを作り出す、それも実のある総合計画を作るのであれば、10年というものに固執する必要があるのか。今度5Gになる時代です。そんなことは誰も皆さん3年前は思っていなかったんです。ということをお前はこの資料をいただいたときに、10年先かと。たまたま教育に携わっているんですけども、それでさえ分かりませんので、そこをお前は第1回の時に質問しようと思っていました。以上です。

事務局  
(行政経営課長)

基本構想で触れている部分というものについてご説明します。この第5次の概要版はお持ちでしょうか。

こちら2ページですね。これが基本構想のダイジェスト版ですが、まず将来都市像です。我々は少し先を見て政策を考えていかなくちゃいけないのかなど。政策でも今年予算をつけて、翌年度にする効果があるのかって言うと、特に人口の増減に関わるようなものは、数年かかってやっと効果も報告が出るようなものもございますので、この少し先を見た将来都市像、そして、あとはその将来都市像に向かっていくための、まちづくりの基本方向として、「支え合う、安全、安心安全のまちづくり」ですとか、「快適な都市空間づくり」ですが、非常に抽象的ではあるんですが、方向性を示すものです。そしてその方向性を作る上で、業種はこういったキーワードを、今回は二つ、前回は「協働」「自立」「共生」「独創」、この四つのキーワードを理念として、まちづくりの基本方向を定めたんですが、これが基本構想というものでございます。

一方、基本計画は、もう少し細かくて、4ページと5ページでございますが、例えば、4ページの一番上の方ですかね、1の「支え合う安心安全なまちづくり」。この基本方向は決めましたので、これを実現するためには何をやるのか、これが基本計画になります。こちらの細かい事は5年というふうにさせていただいておりますので、今、細野委員がおっしゃったのは、10年先を見据えた政策というのは打てないということではございましたが、5年できちんと考え直して参ります。現状そのような基本計画になっております。ちょっと抽象的ではあるんですが、10年先のものは基本構想的なものを作るというようなものでございます。

尾花委員

今の質問に関連して、基本構想を外しちゃって、基本計画を首長マニフェストと合わせて4年で策定する自治体もあるが、一応今回はもう10年計画の上に構想を立てて、5年5年でやるっていうフレームで考えるということではいいですか。

事務局  
(行政経営課長)

はい。今尾花委員のおっしゃった、4年を経過期間としているところっていうのも一時的には、結構あったということは情報として持っております。た

尾花委員	<p>だ、最近のトレンドはですね、どちらかというと行政の継続性というものも一方でありますので、継続性をとらえて、市長の任期ではなく、5年としているところが多いというような感触がございます。</p> <p>先ほどの村松さんの質問と少し関連するんですが、合計特殊出生率の2.07の基準値を、要するに人口を増加させる市側でやれる政策の限界っていう言い方がいいかわからないのですが、国の方でやる施策が出生率の増加で、自治体レベルでやれるのっていうのは転入を超過させるっていうことが、現実的な範囲だっていうふうによく言われます。そうすると上尾市としては、転入者を増やす政策をやる中で、比較的出生率に影響しそうな年齢層を増やすことによって、2.07とかも同時にクリアしようと順番で考えてるっていうことだと思っんです。そうすると、施策を打っていく中で、今言った年齢層に対しての、例えば手厚いこととかをやらうと思った場合に、さっきの話で出てましたがその転入者が、実際出生率の増加に結びついてるかっていうのは、根拠として必要になるかと思うんですけど、それを何か調査しないんでしょうか。</p>
事務局 (行政経営部次長)	<p>実際に国勢調査5年ごとの場合はですね、住民票あるなしに関わらず全部調べていきますので、その成果が出たかどうかというのが、国調からフィードバックできるかとは思いますが。実際のところその2.07に向かって、根拠が今のところ示されてないということですが、今後示される中で、我々も当然そこに沿った目標を立て、上尾市も尾花委員がおっしゃったようなことで考えているが、例えばですね、先ほどの話では、どんどん人口は増えたけど、外国人ばかり増えてますよと。外国人の方が子供を産んでくれるのか、国籍を持っていただけのかっていう話になると、またちょっと違ってきてしまいますので、実際には、上尾に長く住んでいただいて、ここで暮らしていただけるような市民の方を増やしていくため、その中で国の目指す2.07も上尾市も5年遅れでそれを達成する目標としようという、いわゆる高めの目標を上げたということです。</p>
村松委員	<p>結局合計特殊出生率すぐには上がらないと思うんですけども、5、10年で追跡していったらもう少しは上尾市単独で追っていても子育て支援の施策いっぱいやっていますっていうことで、短期では無理だと思うんですね、10年スパンで上がっていったらという調査はできるんじゃないかなと思います。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>はい。そうですね。実は上尾市は定期的に2、3年に1回ですけども、転入者と転出者の大体8割ぐらいの方にアンケートとってます。何で転出していったのか、どこに行ったのか、結構かなり細かくアンケートをとっていますので、その中に5年前に転入してきた人にアンケートを送ってみて、そういう問いを入れてもいいのかな。ちょっと今、感じたところですので、これでちょっとフィードバックさせていただきます。ありがとうございます。</p>
尾花委員	<p>地方創生の総合戦略の策定スケジュールとの兼ね合いがどうなっているのを教えて欲しいのですが。これは単純に下部計画だから気にしなくていいということか。それか総合戦略で確定したものを待って総合計画でやるのか。</p>

<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>はい。総合戦略というのは、上尾市の2040年とか2045年の人口を想定して、どこに力を入れてこうというのが総合戦略です。一方、総合計画というのは、人口の増だけではなくて、それ以外、例えば、環境分野、人権男女共同参画分野とか、それらは直接的には人口増に直接結びつくものではないかもしれませんが、そういうところは、総合戦略に入っていない分野になります。そういう違いが総合戦略と総合計画にあります。</p> <p>その上での委員のご質問でございますが、同時に、総合戦略も今作っているところです。実はこの細かい人口の分析は総合戦略のデータを、ここで本日も報告させていただいたところですので、両方の意見をお伺いしながら作り上げ、同時に作り上げていこうというふうに今考えているところです。</p> <p>計画期間はですね、今まで総合計画と総合戦略が1年ズレていたんですが、やはり総合計画の中の総合戦略ですので、やっぱりズレていると足並みがそろいませんので、今回総合戦略を1年ずらしまして、総合計画の方に合わせさせていただいたところでございますので、来年度で同時に作っていくというような予定でございます。以上です。</p>
<p>平会長</p>	<p>総合計画の中に総合戦略を位置づけるのか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 尾花委員</p>	<p>位置関係としては、やっぱり最上位計画は総合計画です。</p> <p>厳密にいうと今年度のスケジュールだと一応総合戦略を先行して作るかどうか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 小山委員</p>	<p>そうですね、はい。</p> <p>前期の将来都市像。「笑顔きらめく“ほっと”なまち あげお」というフレーズなんですが、これは全体の基本構想。計画を貫くフレーズだと思えますが、今回はこの部分は、修正するんですか。それとも新たに考えるか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>そうですね。現計画に掲げた将来都市像は計画期間が終わりますので、この将来都市像は変え、新しいものを作りたいと考えております。現在の市民会議でいろいろ議論しているところでございます。</p>
<p>田辺委員</p>	<p>先ほど私の方でちょっともしかしたらミスリードしてしまったかもしれませんが、合計特殊出生率2.07は難しいですっていうお話をしましたけど、上尾市が2045年に向けて頑張るといのは、それは全く正しいことだと思います。それがいけないって言ったつもりは全くありませんので、高い目標掲げられたということで感心させていただいたということです。ご理解いただければと思うんですけど。</p> <p>それで1点、資料3の方に、策定にあたっての視点が、まず一番最初に「右肩下がりの時代に対応する計画」というふうにお題目が出ているんですけど、この「右肩下がり」とはどうかと。市の総合計画の一番最初の柱がシュリンクしていくことを前提にしてるように読めてしまうのでちょっと夢がないかなっていう気がしましたので。一方で(3)には「広範な課題に取り組み」ということが書いてあるので、またここで総花的な匂いがしちゃって何か</p>

	<p>矛盾があるのではないのかなって気もしました。おっしゃられたことはよく分かって、貴重な財源はきっちりと必要なものに使いたいんだと。あとは、行政だけじゃなくて他の主体もうまく使って、総合的に最適解を作っていたいんだよってことをおっしゃりたいんだと思うんですけど、もちろん最初にあるべき姿があって、その行政のお金の使い方は、ちゃんと重点的にやりますよ。というような書き方の方がいいのかなと思いました。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>どちらかと言いますと、上尾市の場合は、総合計画を作成するにあたって、これは職員側の意見としてですが、自分の課はこういうことやりたくて総合計画に掲載したい。そういうような前向きの気持ちがあって、どうしても総花的な総合計画になっていたっていうのも事実としてございましたので、そこをある意味内部的に戒める意味で、現実路線を行くんだという思いがあって、これを1番目にしているんですが、委員ご指摘のとおり、市民の皆様に対して打ち出すにあたっては、その辺きちんと検討していかなくちゃいけないというふうに考えました。ありがとうございます。</p>
<p>平田委員</p>	<p>田辺委員のご趣旨のことは本当に賛同できるものだと私も感じています。確かにそういう、色々なデータを見ると、なかなか、将来展望が持てないかもしれないかもしれないですが、今現在上尾市は微増できている状況があるわけです。それで、やっぱりさいたま市、伊奈町に囲まれて、人口増をしている地域なので、一番最初の方針を縮小しろ縮小しろみたいなイメージを前面に出すっていうことは、皆さんの受けるイメージとしてもよろしくないのではないかと思います。</p> <p>今後子育てに特化して給食無償化を進めた明石市とか、どんどん人口が増えて、若い人が増えているところあるわけですよ。そういう、やっぱり市民が希望を持てる未来に、持てるような計画を高く掲げていただきたいと思います。それであれば、皆さんが行政も市民も市民協働して努力してやっていけるようなものにしたいと考えます。</p>
<p>星野副会長</p>	<p>先ほどご説明いただいた資料3の「第6次上尾市総合計画策定方針」は、表に出るものなのか。それとも内部の資料か。それとこれはどこで策定をしたのか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>まず表に出るのかっていうことですが、最終的には冊子の中に入れていきたいということで作ってます。これは先ほどの策定体制で図示させていただいてありますが、市民の皆様、策定体制ですね、あげお未来創造市民会議と連携して、この審議会での諮問をいただいて、ご意見をいただいて、そこで庁内体制の中でしっかり作り上げていきたいというふうに思っていますので、この策定の方針については、あくまでも市長の決裁ということで作っていく予定です。</p> <p>また、策定方針については、事務局で案を作り、市長決裁をとったものです。</p>
<p>星野副会長</p>	<p>事務局で作られて、市長が決裁されたということですが、これは一つの目安であって、この会議の中で加えるなり、そういうことはこれからできるということによろしいでしょうか。</p>



<p>事務局 (行政経営課長) 平会長</p>	<p>はい。ご意見を踏まえたいと思います。</p> <p>この審議会の情報公開の一環として、この資料はホームページにアップされるのではないですか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 平会長</p>	<p>はい。すべてアップします。</p> <p>ですから、この資料ナンバーがふつてある資料は、ホームページにアップですよ。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 細野委員</p>	<p>議論の過程としてアップさせていただきます。</p> <p>そうすると今、質問がされたように、「右肩下がりの時代に対応する計画」に即したというイメージが付かないか。策定過程ですので、例えば、「現状を把握し、現状の課題に対応する計画」と例えば書いたとしますよね。そうすると、この審議会では現状をまず見据えて、課題をそこから抽出をして、どういう方策がいいか、最適な方法は何か、最終的な実施例は何か、という流れでいくんだらうと思うんですが、初めに「右肩下がりの時代」と書かれてしまうという問題点を提起されたように私は理解をしたんですが、ただこの資料3は、本日の資料としてはアップされるということによろしいですね。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>このままアップさせていただきますして、そのご意見も議事録として同時にアップさせていただきますので、最終的にどうなるかっていうのは、まだ別の段階として考えさせていただきたいと思います。</p>
<p>事務局 (行政経営部長)</p>	<p>今、策定方針の方で議論をしていただいているところですけども、資料3の3「策定にあたっての視点」ということで掲げさせていただいておりますが、これは冒頭、策定にあたっては以下の視点に留意しつつ、策定するというところで、策定にあたってはこういう視点が必要であると。そういう一つの指針として掲げております。ですからやはり計画ですので、現状認識をしつつ、与えられた市の様々な資源と照らし合わせて、こういうことを留意して作るべきだということで、最終的な計画ができあがったものが、この計画の基調となるわけではなくて、策定にあたっては、やはり現実は見据えて、その中で議論をしていただければならないという策定の指針としてお示したものであるということで受けとめていただければ結構だと思います。</p>
<p>平会長</p>	<p>策定方針の策定のあたっての視点については、この審議会で見解が出たと言う事で議事録は作成することになると思います。</p> <p>資料と一緒に同時公開ということですね。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>はい。同時に公開します。</p> <p>先ほど村松委員から、合計特殊出生率の推移についてのご質問がありましたが、その資料を用意させていただきましたので、配付させていただいてよろしいでしょうか。</p> <p>県のホームページから持ってきたものなのでちょっと字が小さくて申しわ</p>

<p>平会長</p>	<p>けございません。一番上の表ですね。上尾市のトレンドを見ると、27年度は1.43っていうのは、この年だけぽんと上がっているだけであり、上尾市が大きく落ちてきてるといようなものではないということが分かります。</p> <p>あげお未来創造市民会議の資料の中に、合計特殊出生率と、婚姻率をプロットしてある資料がありますよね。あれも参考になるかと思います。</p> <p>要は、日本社会で結婚した方が出産するには、その婚姻率の方も重要になるとのことです。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 平会長</p>	<p>その資料については、次回までに用意させていただきます。</p> <p>私の方から、2点質問させていただきたいんですが。転出入については、社人研のデータを使っているということなんですけども、社人研のデータも何年分をベースにしてやってるかを確認したいんですね。それがあまりにも短いとすると、ちょっと特殊な状況があると、数字が大きくなったり小さくなったりするわけですね。上尾の場合も大きなマンションができた年は転入が多い。そういう影響があるので、今後上尾で大型マンション建設や大規模住宅団地開発があるのかどうかということも加味しないと、社人研のデータを使う危険性があるかなと思います。もっとも皆さんが合計特殊出生率2.07をかなり気にされている訳ですが、今回2030年時点の人口を、基本構想、基本計画で出すと思うんですけども、先ほどの説明ですと2040年と2045年の人口が出てますが、先ほどの出生率1.77と理想的な数字に合わせて2030年の数字を設定するのかどうか。</p> <p>それからもう一つは総合計画で難しいのは、人口先にありきなのか、どうか。人口の考え方ですね、その辺をこの審議会でも共有しないと、議論が混乱しますので、その辺、事務局の現時点での考えお聞かせください。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>まず、一つ目のご質問の社人研の何年分のデータを使うのかっていうことですが、確かに異常値というものがあると、少し数字の信ぴょう性が、落ちますので、こちらはしっかり確認をさせていただきます。</p> <p>あと、二つ目のご質問ですが、人口を想定して総合計画を作るのかわかっていうご質問なんですけど、先ほど尾花委員からもありましたけど同時に総合戦略で、人口の長期ビジョンを2045年何人にするんだっていうことを議論していただいていますので、まず人口をどうするのか、生産年齢人口をどのくらいまで上げていくのか、そのためには、どういう政策を上尾市全体で打った方がいいのか。そういった議論の流れになるのかなというふうに考えています。</p>
<p>平会長</p>	<p>2045年に強めの数値を総合戦略で設定して、そして2030年もこの数字に向けて、やや高めに設定するのか。そうではなく、社人研ベースなのかの2者選択かなと。あと、その中間というのもあり得るかもしれませんが、総合戦略と総合計画が同時に作られているので人口の設定の整合性はどのように考えていますか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>二つの要素がございまして、一つ転入転出の状況は、現状社人研のデータ上では上尾市はいい数値が出ていますので、それを継続させるために政策を</p>

村松委員	<p>引き続き打っていきこうというのがまず一つです。</p> <p>もう一つの要素として出生率がありますが、出生率は国が2040年度2.07にするんだと言ってますので、2030年は国が国民希望出生率の1.80にするんだというふうに言ってますので、上尾市もそこに倣って数字を1.77にしていきたいと考えております。それが11ページ、資料の2の表の中です。</p> <p>国は目指す方向が、2015年が1.45で2030年には国民希望出生率の1.80。そして2040年2.07。上尾市は、2015年が1.43ですので、同じ角度でいくと、2030年が1.77、2040年が2.04。最終的には上尾市は5年遅れの2045年に2.07にしていきたいんだと、出生率と社会動態の社人研のデータを両方使って、数字をとらえていきたいなと思っております。</p> <p>ちょっとかなりセンシティブな問題になると思うんですけども。私の考えもあります。子育てしやすい体制をすることによって、結果として、合計特殊出生率が上がるっていうのはいいと思うんですけど、合計特殊出生率を上げるために来てくださってという感じになってしまうと、不妊治療をしていたり、子供を産めない人などからすると、人によっては不愉快に思う方もいると思われま。少子化対策として合計特殊出生率を目標として掲げることはいいと思いますが、それよりも、例えば子育てしている人からすると、上尾市は満足度が何%ですよとか、そういう形の指標を設けないといけないのではないかと。明石市なんかは、待機児童は多いんですが、一生懸命私たちのためにやってくれているからっていうことで、待機してる方の満足度が高いみたいだ。</p> <p>だから上尾市もただ合計特殊出生率これだけ上がりましたとかじゃなくて、子育てしてる人からして満足度がすごく高いですよ、上尾市はすごくよくやってくれてますよっていうような数値目標を別に持ってないと、一部の人から反発を招いてしまうし、実際、その合計特殊出生率のためだけに女性がいるかのようにとられると嫌だと感じる人がいると思うんですよ。究極を言っちゃうと、子ども産んで欲しいから20代30代の人来てくださいます。そう言っちゃうとすごく不愉快に感じる方もいるので、ちょっと気をつけなきゃいけないかなっていうふうに思います。</p>
事務局 (行政経営部長)	<p>今の大変貴重なご意見ありがとうございました。まことに今のご発言は、行政を預かるものとして、市民の立場は様々ございますので、そういうことに配慮して、初めに数字ありきではなくて、それぞれの立場に配慮して、施策を考えていくと、大変貴重な発言と受けとめて、今後の役所の中での議論の過程でも、配慮した形で進めていきたいと考えています。</p>
三井田委員	<p>ちょっと質問というか私も経済界の方から参画させていただいているんですけども。今日の議論はベースとなる人口動態のような気がして、出生率を上げるとか云々とかっていうのももちろんですけど、やはりその上尾に住む住民を増やすとかっていうことを考えると、やはり経済界とすると、企業誘致をすとか、そういったこともどうしても必要になってくるような気がするし、福祉を充実させるなどいろんな面が出てくると思います。そういう意味で、そういうものもここへ盛り込まれるものなのか。</p>
事務局	<p>そうですね。今日はあくまでも人口の話ちょっと特化してしまいましたが、</p>

(行政経営課長)	<p>今後上尾市の10年後に見据える上でも、基礎的な情報としてご説明しただけです。最終的にはもちろん、企業、産業も入りますし、福祉も入りますし、教育も入りますし、すべての上尾市の政策がここに盛り込まれます。</p>
<p>事務局 (行政経営部次長)</p>	<p>ちょっと我々の説明がうまくできなくて誤解を与えたような形になってしまったんですが、総合計画は人口移住の目標を立てましょうということではございません。基本的に最初にお伝えしたとおり、このままいくと上尾市は人口が減りますし、その内、特に生産年齢人口がうんと落ち込みます。これを2040年問題とってですね、これ全国的な問題になってます。ただし、国の方も出生率等を何とかしていこうという動きが出て、上尾もそれに合わせている。なぜ生産年齢人口が必要かという上尾市の税収、この市民サービスの継続をできるかどうか。少なくともこれからは経費を削減して、今のサービスをより良くしていくには、やっぱり生産年齢人口を増やしていかないと、ただ人口減を止めるだけでは駄目なんです。ですから、最初の課題としましては、このままいくと幾ら人口が今のところ微増していても、税収が半分になってしまうような問題があるので、そういう事を皆さんにわかっていただいて、まずこの10年間に、夢が持てるような、その夢を持てるようなことによって、初めて先ほど言った子育て世代の方たちが上尾市に来てくれるような、そういうものを作っていたきたいという説明だったんですけども、ちょっと人口の方に議論が集中してしまったような気がしております。</p>
<p>前島委員</p>	<p>大切なお話をされていて申し訳ないのですが、私は以前も計画策定の際にかかわらせていただきまして、皆さんに、事務局にお願いなんです、この大きな冊子を前期分として作っていく中で、項目ごとに、福祉なら福祉、子育てなら子育て。ということで、会議ごとに各論を皆さんで話し合った記憶があるんですが、そういう会議があつて何回か持たれる中で、この項目ごとに、今、皆さんがご心配なさっているような様々な商業に関わることであったり、教育であったりっていうのが、細かく、今後議論される機会がまずあるっていうことをきちんと説明しないと、ここで全部、今、気になることを話し合うっていうような感じになってしまうと、非常に焦点がぼやけてしまうので、今人口のことがありましたが、人口についてはこの中で、もう一度話し合う機会が会議の中であるのか。なければ今しっかりと、話し合った方がいいと思いますが、その辺も含めて、今後の審議会はどのように進めていくのか、しっかり皆さんに説明しないと、今何を話し合えばいいのかわからないのが、それぞれの方の気になるところばかりが出てきてしまって、まとまりがつかみませんので、それをお願いしたいと思います。</p>
<p>事務局 (行政経営課長)</p>	<p>資料4をお願いいたします。資料4の一番下の方、今日が2月の会議ですが、あくまでも今後のご議論をしていただく上でのベースということで、情報提供させていただいた訳です。実際は2、3、4回目の会議。ここで各個別の議論をさせていただきたいと思っております。数値目標などこれでいいのか、こういった施策の方向性を打った方がいいんじゃないのか。それぞれ分野ごとに幾つかの分野に分けてですね、ここでご議論していただきたいと思っております。</p>

前島委員	<p>わかりました。皆さんが見ていただいて、何回目で自分の興味のあるところが話し合えるんだなということが分かっていただけだと思うんですけど、あとは今の人口のことについての話はまたどこかで議論できる機会がありますか。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>人口については、今日の数字は社人研の推計をお出ししているだけでございますので、これをどうしていこうかというものは、また別途ご議論させていただきたいと思っております。</p>
田辺委員	<p>であれば、なぜ人口将来推計するのかみたいところから、ご説明いただけるといいのかなと思います。多分、将来、今まで右肩上がりの社会だったからこれだけ人口増える見込みだから下水引かなきゃいけないね、市街化広げなきゃいけないね、というような議論で計画を作ってきたと思うんですけど。そうではなくなったときの人口推計は、どういう意味でやるのか。ちょっと考え方について、ご説明いただけるといいのかなと思います。</p> <p>逆に人口が減ってくるのであれば公共施設統合しましょう、そういう議論をしながらね。バラ色で人口が増えていくのであれば、今までのままでいいやみたいなの、そういったことで人口推計って必要なのかなという気がします。それを皆さんにご理解いただいた方が、議論が進むような気がしました。</p>
事務局 (行政経営課長) 尾花委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>確認ですが、人口もですけど、各指標が現実とかなり乖離してきた場合に修正するポイントというのは、計画の中間の前期基本計画の5ヵ年計画が終わった段階、後期基本計画を作る時に修正するということですか。あとその実施計画は多分毎年ローリングであると思うんですけど、どちらかというと予算化されてるところであり、指標どうこうっていう感じよりはもう少し細かい事業の内容ですよ。</p>
事務局 (行政経営課長)	<p>基本的には尾花委員おっしゃる通り5年後に、5年ごとに数値目標は変えてきている状況でございますが、昨今1年でも2年でも大きく時代の潮流は変わりますので、今後は毎年PDCAで回す際に、1年に1回、目標数値を変えてもいいのではないかなというようなご意見もいただいているところでございますので、その辺も加味しながら、今後検討していきたいと思っております。</p>
小山委員	<p>先ほどから人口の問題が議論されてるんですが、総合計画はそもそも人口計画ではないですよ。人口というのは一つの要素であって、それをどうとらえて行政運営を進めていくか、或いは市民と一緒にやっていくかということだと思っております。</p> <p>先ほどの策定方針、これはこれで、第一報として、まずアップされると思いますが、この3の(1)の「右肩下がり時代に対応する計画」という言い方について、これは「対応」でいいのかなと。或いは、上尾市としては、これを「克服する」とかね。「右肩下がり時代を克服する計画」にする。つまり上尾市の行政当局と上尾市民を巻き込んで、総合計画は作ってるんだというように考えていくのか。と言いますのは、策定過程見ますと、最終的には議会が議決するんですよ。基本構想については、議会が議決するって</p>

	<p>うことは市民の代表たる議会がこれを認めるわけですから、当然、単なる行政計画だけじゃなくて、市民を巻き込んだ上尾市としての計画の位置付けになるかなど。そういうことからすれば、私の個人的な考えから言えば、あまり人口は、いじくりまわしても色々な考え方があり、特にこの出生率2.07は政府の数字ですから、これをやるよりも、さっき前島委員さんがおっしゃった通り上尾市の各施策、夢があるような施策を展開していくと。つまり視点では、対応する計画になってるけども、右肩下がりの時代を克服して計画しますよ、とか。或いはその「未来を見据え、将来の市民ニーズに対応」の「対応」というのが反射的な計画というイメージがあるんで、それを「創造していく」といった総合計画になればいいのかなど。それを議会が承認することであれば、市民もそれは協力していくというような計画になると思います。</p>
<p>平会長</p>	<p>人口に関して今日いろいろ意見出ましたので改めて、今日出た意見を踏まえて、事務局としての考えを次回示していただけますか。</p>
<p>事務局 (行政経営課長) 土橋委員</p>	<p>はい。</p> <p>先ほど次長がおっしゃった、行政が円滑に運営して、住民サービスをきちんと提供できる、継続できるスキームをどうやって作るかということ。それはよくわかって、今日いろいろ議論して、では目標はどうなるか。</p> <p>目標って考えると二つあって、最終的な目標と、もう一つ一番大切なのが、その目標に向かってやらなきゃいけない色々な手順ですね。順調に前に進んでるかどうかというところで、多分行政の方はそのことをきちんと押さえてPDCAということをおっしゃってるんだと思うんですけども、最終的な目標っていうのはあるけど、終わってみたら駄目だったっていうのは駄目で、そうするとそれに向かってのいろいろな手数がうまくいってるかどうかというのもすごい大切な目標だと思うんで、当然その実施していく中で環境も変わってきますから、究極目標も多分変わってしまうのではないかと。そのような目標の立て方という構造ですね。私自身もこれが議論の中で、二つ考えながらいかなきゃいけないのかなと思ったところですが、そのような考え方でよろしいのでしょうか。</p>
<p>事務局 (行政経営部次長)</p>	<p>はい。そのとおりでございます。こちらでは一番大元の計画を作っていたとくということでございますので、当然、その下にはいろんな計画、もしくは実施計画がぶら下がってきます。それには、人口を増やすという視点もあるかもしれませんが、経費を削減して安いお金で住民サービスを今以上にするなどといった視点がございまして。そのようなところを前期・後期基本計画において適正に評価をしながら、先ほどお伝えしたとおりの、5年置きでなく年度ごとの中でも見直すという試みを今後やっていきたいということで考えておりますので、今いただいた意見も踏まえて、指標のあり方、検証のあり方については、今後検討してまいりたい。</p>
<p>平会長</p>	<p>そろそろ予定の時間になりますが、特にご意見・ご質問がございましたら手短かによろしくお願ひしたいと思います。</p>

村松委員	事前に次はこういう議題があり、事前に質問ができるようにしておけば、事務局の負担も少なくなるし、こちらも安心だと思います。出たところ勝負だと、今日みたいに話がまとまらないし、焦点が定まらない感じがしてしまいます。
平会長	多分そうしていただかないと時間が足りないと思います。
事務局 (行政経営課長)	今後は資料を早めに送付させていただきまして、事前に意見をお伺いするなり工夫して、進めさせていただきたいと思います。
平会長	それでは、議題の(3)「その他」ですが、今後のスケジュールの話を事務局からお願いします。
事務局 (行政経営課長)	次回の審議会の日程でございますが、4月7日の火曜日、午後1時30分からとさせていただきたいと思っております。議題につきましては、基本構想の案。将来都市像ですとか基本理念といったものと計画の体系について、ご議論いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。
平会長	体系とはこの概要版資料の3ページのようなものですか。
事務局 (行政経営課長)	そうですね。はい。
平会長	はい。資料は我々にはいつぐらいに送っていただけますか。
事務局 (行政経営課長)	可能な限り早く送りたいと思います。
村松委員	他の会議の委員をやっていると、質問などあるとメールでやりとりをしますが、この会議ではどうしますか。
事務局 (行政経営部次長)	メールでの対応も考えたいと思いますので、よろしく願いします。
平会長	その他何かございますでしょうか。 それでは以上をもちまして議事を終了させていただきます。進行を事務局にお返しいたします。
事務局 (行政経営部長)	大変長時間にわたり活発なご議論、どうもありがとうございました。それでは、最後に、星野副会長から閉会のご挨拶をお願いいたします。
星野副会長	大変お疲れ様でした。活発なご議論、次回以降が非常に楽しみでございます。以上をもちまして、第1回上尾市総合計画審議会を閉会させていただきます。大変お疲れ様でした。
	以上